

## 第8回芦屋港活性化推進委員会 資料

1. ゾーニング案
2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

平成30年4月26日

# 1. ゾーニング案

## (1) 第7回の委員会での指摘事項（抜粋）

指摘事項	対応
ターゲットは、女性・若者などだけでなく、シニア層を対象にしても良いのではないか。	シニア層もターゲットとし、幅広い層に利用される施設を目指していく。
いちばん水面に近い部分は商業ゾーンとして活用したほうが良いのではないか。	水面に近い部分も「交流・賑わいゾーン」とする。施設の整備のあり方は、参入しようとする事業者の意向を踏まえて検討する。 ※商業ゾーンは、交流・賑わいゾーンに名称変更
建物の規模などは、事業性をきちんと検証して検討したほうが良い。	専門分科会で、参入しようとする事業者の意向を踏まえて具体的に考える場を設ける。
芦屋の武器である、「海」を活用して、芦屋ならではの体験を提供すべき。	様々なマリレジャーを、芦屋海水浴場のほうで実施できるようにし、芦屋港に窓口を整備する計画である。
冬場対策として、全天候型アクティビティが必要。人が呼べる。	全天候型アクティビティの導入を計画する。
ゾーニングについては、現在の物流事業者が利用しなくなった後を前提に検討すべきではないか。	ゾーニングでは、物流事業者が利用しなくなった後の将来案を検討する。

# 1. ゾーニング案

## (2) 委員会での結果を踏まえた導入機能の検討

これまでの検討結果



クロスSWOT分析による方向性

### 【芦屋港周辺地域の方向性】

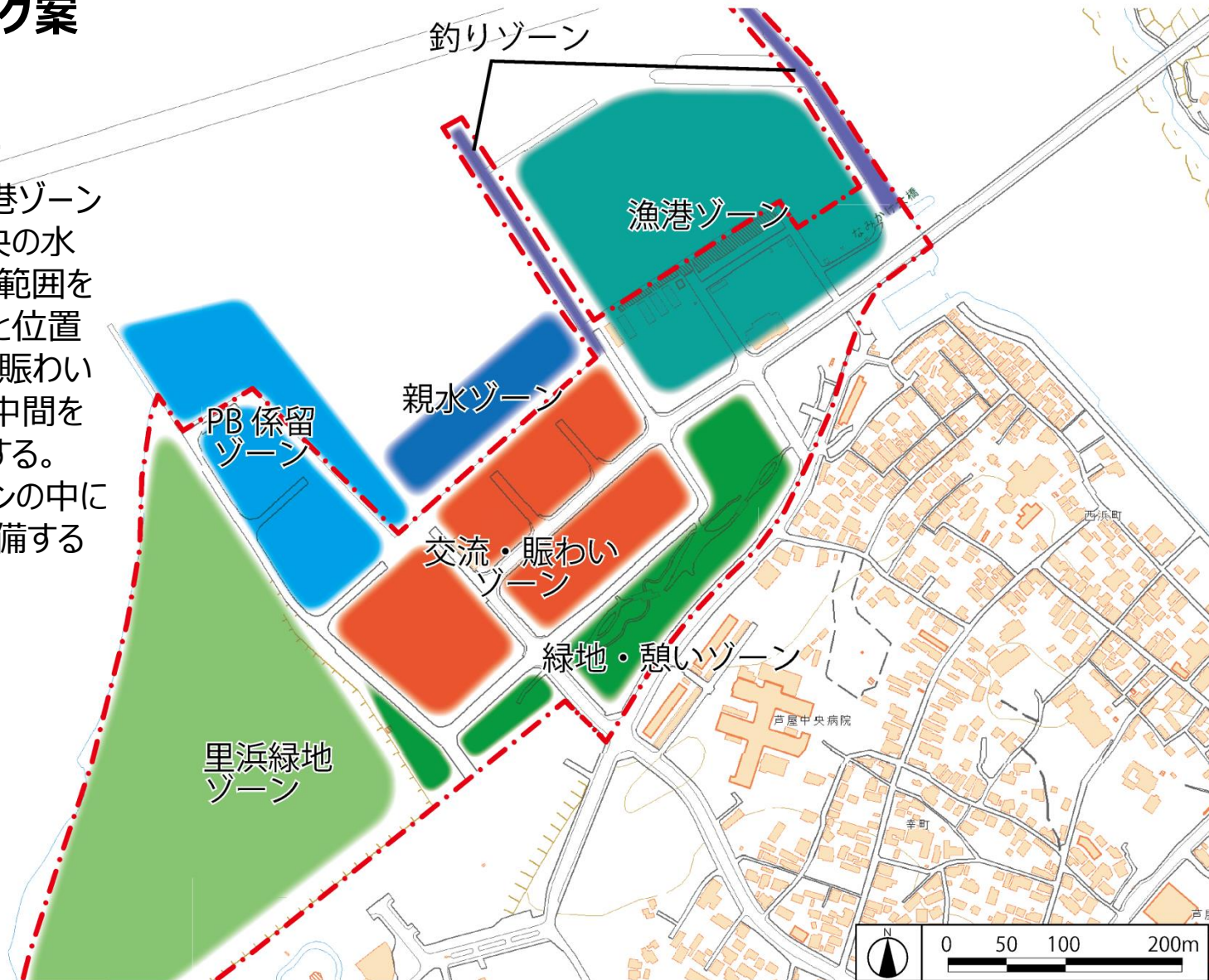
- ① **周辺施設と差別化を図りつつ、漁協の近さを活かした、「魚食の拠点（飲食、販売、体験）」としての機能を導入する**  
⇒新鮮な魚を楽しめるレストラン、漁師との距離の近い直売所、魚食体験施設の整備 など
- ② **サイクリストが滞在できる機能の導入、マリンアクティビティが体験できる機能の導入を行う**  
⇒若者やファミリー層、インバウンドを対象にした、サイクルステーション、マリンレジャーの窓口（パラセーリング、カイトボードなどアクティビティの実施は里浜緑地ゾーン西側で実施）
- ③ **昼間は、屋内で楽しめる機能を導入する**  
⇒ママ友、ファミリー層、シニア層等が楽しめるベーカリーカフェ、屋内型子どもの遊び場
- ④ **夏は海や砂浜を楽しめるアウトドア機能、冬季の悪天候対策として、全天候型のアクティビティを導入する**  
⇒幅広い年齢層に対応できるイベント広場、BBQ広場、屋内型遊び場、砂像展示
- ⑤ **芦屋港周辺地域の強みである、「夕陽」や「居酒屋の多さ」を活かして、町内外の人が、夕方から夜にかけての芦屋町を楽しめるコンテンツの強化を行う**  
⇒若者、ファミリー層、シニア層等を対象にディナーを楽しめるレストラン、夜の芦屋飲み歩きマップ

# 1. ゾーニング案

## (3) ゾーニング案

### ゾーン配置の考え方

- PB係留ゾーン、漁港ゾーンに隣接し、敷地中央の水面から西側にかけての範囲を交流・賑わいゾーンと位置づける。また、交流・賑わいゾーンと住宅地との中間を緑地・憩いゾーンとする。
- また、原則、各ゾーンの中に必要な駐車場を整備する



# 1. ゾーニング案

## (4) 各ゾーンの説明

### 交流・賑わいゾーン・親水ゾーン①

- ・直売所機能を導入して、観光客・地域住民が新鮮な魚介類・野菜を購入できる場所を設ける
- ・飲食店を整備し、芦屋港周辺地域を訪れた観光客・地域住民が滞在できる拠点とする
- ・サイクルステーション機能（休憩スペース、ロッカー、シャワー、工具等）を導入して、サイクリストが快適に過ごせる環境を設ける
- ・芦屋港での滞在を促進するよう小規模な宿泊施設を設ける
- ・冬季でも楽しめる全天候型の施設（砂像展示、子ども遊び場など）を設ける
- ・観光案内の拠点も設け、観光情報の発信、マリンレジャーの受付（実施は里浜緑地ゾーン西側で）などを行う



# 1. ゾーニング案

## (4) 各ゾーンの説明

### 交流・賑わいゾーン・親水ゾーン②

- ・親水ゾーンは、海沿いを歩ける遊歩道や海や夕陽を眺められるテラスを設ける
- ・背後には、イベントなどに活用できる広場を設ける
- ・九州山口9県災害時応援協定の「広域海上緊急輸送基地」のとしての位置づけ、浚渫土砂の一時保管スペースなど、従来の港湾機能の一部は維持していく
- ・災害応援協定等の機能に対応するため、緊急時に活用できるスペースを確保する



# 1. ゾーニング案

## (4) 各ゾーンの説明 PB係留ゾーン

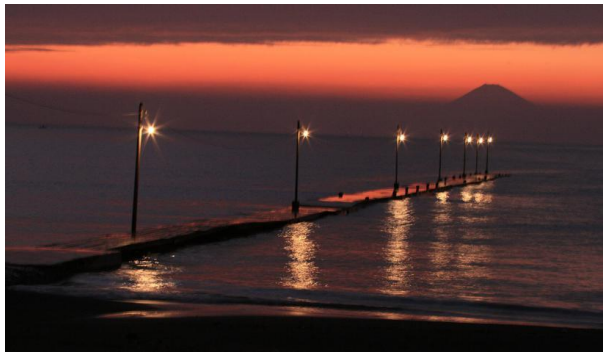
- ・最大200隻の受入容量として整備を行う
- ・水上保管と陸上保管を併用する
- ・交流・賑わいゾーンと隣接するため、スムーズな動線や、交流・賑わいゾーンからの景観に配慮して整備を行う



# 1. ゾーニング案

## (4) 各ゾーンの説明 釣りゾーン

- ・漁港の周囲に釣りゾーンを設ける
- ・釣りイベントなども実施することを想定しており、家族連れ等でも安全に釣りを楽しめる環境整備を行う
- ・釣りゾーンの適正な利用促進のため、管理棟を整備する





# 1. ゾーニング案

## (4) 各ゾーンの説明

### 緑地・憩いゾーン、里浜緑地ゾーン

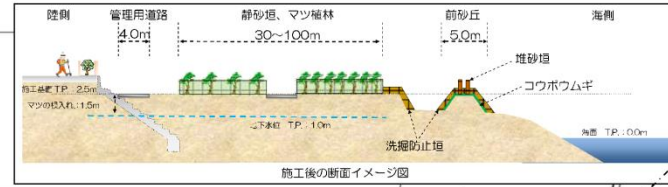
- ・緑地・憩いゾーンは、豊かな緑の中に散策路を設け、背後の住宅地から芦屋港に人を誘導していく
- ・また、健康遊具の設置など、住民の健康増進の場と住民の日常的な利用も促進していく（日常的な散歩コース等）
- ・緑地・憩いゾーンの散策路は、里浜緑地ゾーンと一体的に整備し、空間に連続性を持たせる



# 参考：里浜緑地ゾーンの全体計画

出典：平成26年12月福岡県発行「芦屋の里浜だより」

## 2. 全体計画ができあがりました！



- 前砂丘 (堆砂垣)
- 垣 (静砂垣、防止垣)
- マツ (100本/100m<sup>2</sup>)
- マツ (50本/100m<sup>2</sup>)
- 管理用道路
- 散策路
- ボードウォーク
- 防砂フェンス
- 看板

みどり色がマツを植えるところ。  
初めは、小さいマツをたくさん  
植えて、大きくなるにつれ本数を  
減らしていきます。

マツを400本  
植えています。  
見に来てね！

マツは、マツクイムシに強い  
抵抗性クロマツ (スーパー  
クロマツ) を植えるよ！



マツを植える箇所  
(静砂垣イメージ)



砂山や柵を越える橋  
(ボードウォークイメージ)



人が歩く道  
(散策路イメージ)



砂をとめるフェンス  
(防砂フェンスイメージ)



砂山と柵 (前砂丘と堆砂垣イメージ)



松林を管理する車が通れる道  
(管理用道路イメージ)



柵  
(堆砂・飛砂・洗掘防止垣イメージ)



看板 (イメージ)

※ 今後の地形の変化により、整備内容が変更になる場合があります。

## 2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

### 施設配置計画・整備イメージ図

今後まとめていく「芦屋港活性化基本計画」では、ゾーニング図をもとに、施設の規模・配置・植栽などのイメージを示した「施設配置計画」や、整備後の様子をわかりやすく示した「整備イメージ図（鳥瞰パース、アイレベルパース）」などを作成していきます。

これらを、どのような形で示すのかというイメージを、推進委員で共有できるように、他の事例をここに例示しました。「施設配置計画」のイメージ図がP12、P13、「整備イメージ図」がP14、P15となっています。

## 2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

### (1) 施設配置計画のイメージ



## 2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

### (1) 施設配置計画のイメージ



## 2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

### (2) 整備イメージ図のイメージ



## 2. 芦屋港活性化基本計画のアウトプットイメージ

### (2) 整備イメージ図のイメージ

